●京都府丹後文化会館

前回検証結果 (平成24年度)

要改善

- ・利用者数の増には、自主事業のメニューの工夫や、事業実施にあ たっての地元支援の充実が必要。
- ・育成・創造拠点としての役割を強化するため、文化団体そのものを育成し、拠点化することや、住民の参加・体験型事業の実施や地域の文化団体の活動・発表の場としての利用を促進すること等により、これまで施設を利用する機会がなかった人を呼び込むよう積極的に働きかけるような取組(アウトリーチプログラム)を行うべき。
- ・ホームページコンテンツを充実し、利用団体の活動を紹介するな ど、広報の強化による参加者のすそ野の拡大を行うべき。
- ・地元自治体(含与謝野町)や学校、地元企業・団体の積極的な協力を得て、地域との連携を強化するとともに、施設運営のノウハウを持ったアドバイザーの派遣等を活用し、企画力・営業力を高めるべき。
- ・会館の運営に対する市の裁量・自主性を高めるため、財団法人の 役員体制の見直しや、無償貸し付けの相手方を市に変更し、市の 公の施設として運営することも含め、市と具体的に協議すること が必要。
- ・中長期的には、来場者の約8割が京丹後市民という利用実態から、補完性の原則に鑑みると、府の施設として設置・運営する必要性は小さく、むしろ基礎的自治体である京丹後市の施設として運営すべきであり、今後のあり方について、京丹後市と協議することが必要。

対応・改善策 実施状況

- ・財団法人の公益法人化に際し、京丹後市及び民間の役員構成とし、 民間を含めた地元主体の運営体制とした。
- ・民間委員主体の企画委員会を設置し、一層、市民意見を取り入れる仕組みとした。また、府の文化の仕掛け人派遣事業を活用し、 ニーズの分析・掘起しを行うとともに、住民参加型のミュージカルや能の体験を交えた公演を行い、新規利用の確保を図った。
- ・京丹後市外の利用者を拡大するため、ホームページの改定や「京 都府丹後文化会館友の会」の設置、福知山市、豊岡市でのプレイ ガイドの配布等、広報活動を強化した。
- ・京丹後市の他、宮津市、与謝野町、伊根町の行政・民間団体の協力を得て、広域事業として丹後文化芸術祭を開催し、地域の連携を図った。
- ・平成26年度に設置した、民間委員を主体とする経営改善委員会の 提言を踏まえて、経営改善と運営の見直しに取り組んだ。

取組の成果 ◇前回検証を行った平成24年度と比較し、平成26年度は、 ホール稼働率が約13%上昇 ・ 京丹後市以外の利用者の割合が約10%上昇 なお残る課題・ ◆営業活動などの取組が、利用者数・利用料金収入の改善につなが 問題点 っていない。 ◆経営改善委員会のメンバーに経営の専門家が少ない。 ◆施設設置後35年経過しており、建物・設備の老朽化が進行。 □施設の利用率等については、周辺施設と同程度であり、ある程度 府民サービス等 改革検討委員会 有効性は確保されている。 による改善意見 □京丹後市以外の利用者の割合が増加しているが、特定の自治体住 等 民の利用が中心となった施設となっている。 □中長期的には、施設の老朽化及び類似代替施設との兼ね合いを考 慮の上、計画的に施設のあり方を検討しなければならない時期に 来ている。 □外部有識者による経営改善委員会が有効に機能するよう、地域の 若手事業者やJC(青年会議所)メンバー等の参画が望まれる。 京都府の検証結 要改善 果及び対応方向 <改善方策> ◎利用者数や利用料収入の増加につながる取組を強化するとともに 、経営改善委員会への経営の専門家の登用により、自主財源の確 保につながる取組を強化すること。 ◎施設の利用実態や代替施設の存在、老朽化対策を踏まえ、引き続 き、今後のあり方について地元市町と連携した検討を行うこと。 <今後の対応> ○1事業あたりの集客が向上するよう、事業内容の検討・精査を行 い、住民参加型の事業を増やし、新たな利用者の拡大や収入の増 加を目指す。 ○経営の専門家の登用を含め、経営改善委員会をより実効的なもの とするよう努める。 ○施設の改修計画等を含め、引き続き、今後の会館のあり方につい て地元と連携した検討を行う。